

城端線120年記念事業実行委員会

- ・富山県呉西地区公共交通再生研究会
- ・南砺の城端線を活かす会
- ・城端線活性化市民団体連携体
- ・城端線もりあげ隊
- ・砺波散村地域研究会
- ・ふるさと城端線応援団
- ・RACDA高岡
- ・砺波土蔵の会

協賛

- ・北日本新聞

後援

- ・城端・氷見線活性化協議会
- ・JR西日本
- ・富山大学都市交通政策支援ユニット

城端線開通120年記念連続講座 開催趣旨

城端線は中越鉄道

- 明治30年 黒田～城端間開通、富山県最初の民営鉄道
東海道本線、新橋～神戸間開通からわずか8年後に創設
- 創設の背景、思い、苦勞、先人たちの存在
- 現状を知り、将来を考える

将来を担う若い人達と一緒にお互いに考え・話し合う機会を作るべく
6回の連続講座を計画した

富山県呉西地区公共交通再生研究会について

公共交通再生研究会（平成21年設立）

- ・ 南砺の城端線を生かす会（平成24年設立）
- ・ 南砺のバスを活かす会（平成24年設立）
- ・ ふるさと城端線応援団（平成27年設立）

主な活動状況

- ・ シンポジウム
 - 城端線が地図から消える日（H22年）
 - どうする城端線（H23年）
 - ふるさと城端線を考える（H27年）
- ・ 実証実験
 - 南砺の環状バス 提言・実証実験（H24年）
 - 井波～金沢線実証実験（H27年）
- ・ 事業
 - 加越線終末の記復刻出版（H24年）
 - バス停マップ作製（H26年）
 - 城端線マナー列車キャンペーン（H28年）
- ・ 終着駅サミット
 - 城端線で実施-- 終着駅は始発駅--（H25年）
 - 以後 2回:氷見、3回::鶴来、4回:阿字ヶ浦 で実施協力 30年は広島で
- ・ その他
 - H23年富山県議会総合交通対策特別委員会へ出席

城端線開通120年記念事業連続講座内容 その1

第1回講座 7月9日 城端線は秘密が一杯

講師： 木本尚志 (富山県呉西地区公共交通再生研究会会員)

尽力した人々（大矢四郎兵、島田孝之、岩川毅）、汽車の秘密、加越線と城端線
等 様々なロマンと秘密

第2回講座 7月23日 明治人は鉄路に憧れた

講師： 草卓人 (鉄道史研究家)

- ・ 中越鉄道（城端線）の建設目的・経過、大矢四郎兵の経営方針
- ・ 富山県内鉄道の時代別状況、軽便鉄道、モータリゼーション

講師： 廣瀬直樹 (氷見市立博物館主任学芸員)

- ・ かつては船が物流の要、内水面の舟、
- ・ 庄川・小矢部川水系の舟運、日本海交易と船



・ 第3回講座 8月12日 となみ野の産業革命

講師： 竹島慎二 (富山近代史研究会会長)

- ・ 日本史、世界史的な視点から

鉄道とは、歴史、鉄道の敷設の目的、富山県の民間鉄道の推移

中越鉄道の敷設：資本金は22万円、主要株主の35名／59名は砺波郡在住者

国際的視野で走った民営鉄道（ウラジオストック經由欧州へ）

・ 第4回講座 9月16日 人が動いた、地域が変わった

講師： 西野真夫 (砺波散村地域研究所所員)

- ・ 鉄道の役割や機能が学校でどの様に教えられているか
- ・ 中越鉄道の旅客・貨物輸送の推移
- ・ 今、地方公共鉄道に求められる事、今後の役割

講師： 中川正人 (城端・氷見線活性化推進協議会)

- ・ 沿線3市の人口推移
- ・ 富山県内の公共交通網から見た城端線
- ・ 城端線の活性化に向けての基本方針

城端線開通120年記念事業連続講座内容 その3

第5回講座 10月15日 バスハイク 城端線をもっと知ろう

砺波散居村ミュージアムの学習講座とタイアップして、1回～4回の各講座で学んだ内容を、講座講師と一緒に実地見学実施。

大矢四郎兵像、中越弁慶号、加越線津沢駅跡、加越線旧井波駅

城端線・加越線立体交差、島田孝之生家跡

JR戸出駅跨線橋、JR二塚駅、中越鉄道黒田駅舎跡

伊能忠敏：常花線(城端線)と砺波チューリップ公園で

日本のキューケンホフ公園(オランダ)の実現

今迄知っているようで知らない新しい発見が沢山。



城端線開通120年記念事業連続講座内容 その4

第6回講座 11月12日 シンポジウム

「どこへ行くとなみ野～城端線はなにを変えたのか～」

基調講演 ひたちなか海浜鉄道取締役社長 吉田千秋氏

「人の輪でまちも線路も元気に——ひたちなかの取り組み」

ひたちなか海浜鉄道が如何にして活性化し存続に結びついたかの成功要因を事例を基に発表願った

パネルディスカッション

コーディネーター : 須摩孝一 (富山県呉西地区公共交通再生研究会)

パネラー : 草卓人 (鉄道史研究家)
: 竹島慎二 (富山近代史研究会会長)
: 西野真夫 (砺波散村地域研究所所員)
: 吉田千秋氏 (ひたちなか海浜鉄道取締役社長)

- 砺波地方は生産性の高い地域、城端線は生産鉄道で生活鉄道
- 歴史的鉄道の役割
- これからの鉄道(城端線)に何を求めるか
高校生、生活以外の利用要因、インバウンド
年に300万人以上の利用:もっとうまい利用は?



連続講座を終えて

- 地元の人たちに皆の鉄道が何故出来たのか？知ってもらい
- 先人達が考えた その時代の社会情勢・経済状況への熱い思いを知り
- これらを話し合い・考えることで、今後の地方公共交通の在り方を考える

これが我々の思いでした

残念なのは将来を担う若い人への場づくりが不足した事は 我々の力不足。

しかしながら、多くの皆さまの協力を得て今後の方向を考えるきっかけになったであろう思いを強くして連続講座を終えさせていただきます

ありがとうございました。

城端線120年記念事業実行委員会

城端線開通120年記念事業

城端線開通120年記念連続講座開催報告

『城端線は何をかえたのか』



城端線120年記念事業実行委員会

